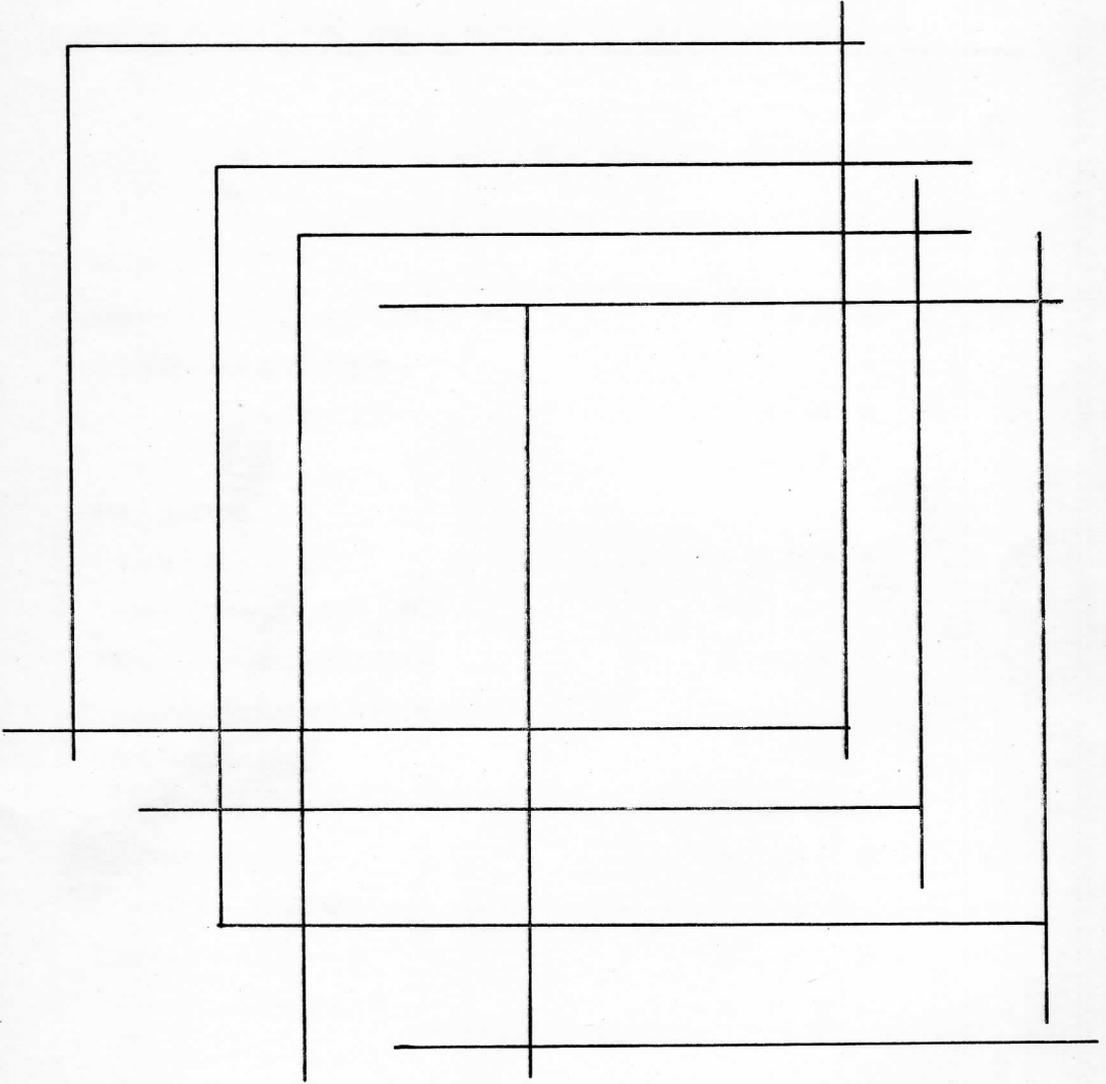


# リベール

73年夏のセミナー報告集



日本アナキズム研究センター

# 序 文

## 日本アナキズム研究センター

反権力・反国家・絶対自由の思想と運動に関する過去および現在の文献、資料、運動紙誌を収集・整理し、その完全な保存を図るとともに、利用者に広く公開すること——を目的とする文献センター（正式には日本アナキズム研究センター）が発足して、ちょうど三年になりました。

一九七〇年の十月、一片の「呼びかけ」がなされ富士宮市（静岡）のはずれにかろうじて居を定められた文献センターは、さまざまな協力と支援によって、おそらくは誰もが予想しなかった歩みを辿っていると思います。それは、現在の文献センターが目的になかった立派なものになったということではなく、ささやかな発意と活動が思いもかけず大きく成長しているということであって、瞬時の感傷にすぎないとも言えるでしょう。

あるがままの文献センターは、十畳余りの書庫兼閲覧室、蔵書は千五百冊の単行本、整理中のミニコミ、パンフ、雑誌類が所狭しと並んでいる。この整理に、すでに二年ほどの月日をかけているがなかなか円滑に作業は進んでくれない。もちろん、まだ公開されてはいません。

文献センターの運営は、家主でもある竜武一郎氏を中心に、有志の活動者（常連者十数名いる）が活動の実質を担っている。また「文献センターの趣旨にそった広範かつ長期的な発展のため」に、相談役として、大沢正道、長谷川進、向井孝の各氏に、管理、運営全般にわたって助言を受けています。活動面ではこれまでも、多くの起伏を経験していますが、当面は以上の体勢で活動を展開していきます。

現在および近い将来の活動は、次のような形と展望のもとに進めます。

文献センターの主旨を支持し、活動に参加・支援する人たちで「会」を結成し、活動を積極的かつ実質的に担っていく。これは、これまで文献類の整理その他の作業と取り組んできた人たちが中心となって呼びかけていく（十月に発足する予定である）。また、当面する課題については、

まず第一に、現在の場所は、竜氏（ふもとの家・YH）に依存する部分が多いため、今

後の活動および文献センターの公開のためには、独立した土地と家屋を早期に確保する必要がある。

第二、管理体制を整え、センターの実務を円滑に処理する体制をつくる。

第三、文献センターの公開を中心に、長期ないし中期的な計画を作成すること。

第四、専従の管理者の常駐を含む、文献センターの財政的な基盤を確立すること。  
を中心に具体化を図っている。

九月からは、長い懸案であった「センター通信」の定期化が、月刊の形で実現しつつある。こうした中で、文献センターは一步前進しようとしています。

#### 七三年・夏のキャンプ

六月三十日から七月九日にかけて、ミニコミ、ピラ、パンフ、雑誌整理、その他の作業を進めるためにワーク・キャンプが行なわれた。参加人員は二、二四名、延べ六十名を数え、作業も予定した七、八割を達成することができた。

同時に、毎夜テーマを設けて「セミナー」が計画された。夏期に、自由学校と称した多角的なキャンプをやりたいという考えが、日の眼をみずに埋もれていたこともあって、作業を目的として発案されたキャンプに「セミナー」がつけ加えられた。一ヶ月ほどの準備期間しかなく、ほとんど用意が出来なのまま、こちらの方は予定した二、三割も危ないという結果に終わった。

しかし、長谷川進氏を囲んでの「ブルードンと現代」、向井孝氏の「戦争抵抗者インタビュー」の話と、非暴力直接行動トレーニング、そして討議に附されなかったレポート、レジメがいくつか残った。キャンプ後、これらを「報告書」として印刷物にし、次回への足掛りとして活かそうと相談がまとまった。これが本書の成り立ちである。